

学校評価表

本校の目指す教育	国家社会の進展に寄与できる実践力に富んだ有徳な人物の育成を目指して、おおらかな徳操、高い知性、健全なる身体、勤労の精神、実行の勇気を涵養し鍛錬する。
本年度の重点目標	1 充実した授業を通して、確かな学力の伸長を図る。 2 生徒の特性を生かす指導に努め、進路実現に意欲的に取り組む態度を育てる。 3 自律的な生活態度を育てるとともに、他者と協働する能力を養う。 4 対外的な広報活動を積極的におこない、本校の良さをPRする。

自己評価							学校関係者評価	
番号	評価項目	年度当初の状況			年度末の最終評価（3月）		実施日：令和6年6月27日	
		現状・課題	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度		今後の課題と改善策
1	授業	Chromebookを、説明のための補助教具として使うだけでなく、生徒たちに積極的に活用させることで、学びが主体的・協働的なものとなるような授業を実践できるようにする。	研究授業や授業互見期間、ICTを活用した授業推進週間等を設けることで、教員同士で授業を見る機会や情報を共有する機会を増やし、授業改善に取り組んでいく。	多くの教員が同教科は勿論、教科の枠を超えて積極的に様々な授業を参観し、教育スキルや情報を共有することで、授業改善に取り組むことができたか。	研究授業担当者がそれぞれ工夫を凝らした授業を実践したことで、教科会や研修会で様々なスキルや情報を共有することができた。	A	研究授業と研修会については、次年度も同じ形で継続し、授業改善を推進していく。	先を見据えながら授業改善に向けて取り組んでいると感じる。 Chromebookの積極的活用が進んでいる。今後さらに促進を進めてほしい。
		観点別評価の理解を深め、学力を多面的に評価する基盤を整えていく。	知識・技能だけでなく、思考力・判断力等の伸長を意識した授業づくりを進めていく。	生徒の主体性や思考力を刺激するような指示や発問ができたか。	協働学習を授業に取り入れたり、試験の作問を工夫するようになった。	B	研修会等をとおして効果的な発問やICTを活用した授業実践を追求していく。	大学との連携はとてつよいが、単位認定までつなげられると一層充実する。
		漢字検定や英語検定に意欲的に取り組む指導に努め、上位級の合格生徒を増やしていく。	受験級に合わせて週末課題を配布し、土日も学習習慣を切らさないようにする。	生徒はきちんと週末課題に取り組むことができたか。また合格者を多く出すことができたか。	学年やコースによって取り組みに差があった。1年生の合格率が高かった。	B	入試での重要性が高まっているため、資格取得に向け、指導体制を整えていく。	総合的な探究について、本校が掲げる「成徳力」を身につけ、自分の将来をしっかりと考えられるようになってほしい。中学校の学びの上に高校の自己実現の力を身につけていくのが理想的だと思う。
2	進路指導	大学進学希望者のうち、一般選抜型入試で受験する生徒が減少傾向にある。	進学センター講習をより充実させ、一般選抜型入試にも対応できる学力を涵養する。	一般選抜型で受験する生徒を育てることができたか。また、志望する学校に合格させることができたか。	進学選抜コースからも一般選抜型で受験する生徒が増えた。	B	一般選抜型受験については、きめ細やかに指導すれば十分合格できる。上位大学に安定して合格できるよう指導するシラバスの構築が今後の課題である。	東京成徳深谷生はこういう生徒だというアウトラインを見えるようにするとよい。
		進路行事を「コロナ禍前」の形に戻すとともに、講演会等の検討や見直しをおこない、生徒の進路意識をより高められるよう努める。	生徒自身の視野を広げるような進路行事（キャリアガイダンス）を計画的に実施する。	2年生にはオープンキャンパスへの参加を促し、進路や将来を具体的に考える契機にできたか。また様々な進路行事等からも情報収集し、志望理由の構築に努めることができたか。	進路行事や進路学習を経て第一志望届を提出するという一連の指導をとおして、生徒は自らの将来について真剣に考えることができた。	A	本校の進路指導の流れは定着しつつある。今後新しい進路行事を取り入れながら、本校の進路指導の流れを定着させていく。	全国レベルに達するものをつくってほしい。
		生徒が自分に最適と考えられる進路希望を見だし、その実現に向け努力するよう、指導する。	総合的な探究の時間を中心に、自己理解や社会への認識を深める中で、自分に最適と考えられる進路希望を見出すことができるように、継続的に指導していく。	高校1年生は自己理解や社会のテーマ等を踏まえて自らの進路について考え、文理選択をおこなうことができたか。また、それらを踏まえて自己の進路についてスライド等にまとめることができたか。	進学選抜コースでは自らの考えや進路目標をスライドにまとめた。特進SコースではJICA等と連携し、国際的な視野に立った学習もおこなうことができた。	B	学年全体で足並みをそろえ、コース間に差がないように努める。一方でコース独自の取り組みについては今後も推進していく。	部活動に励むだけでなく、難関大学へも進学している。しっかりと面倒を見て感じられる。合格実績は年によって上下することはあるが、理想を下げずに志望校を目指す指導をしてほしい。
3	生徒指導等	全職員の共通理解のもと、統一的な生徒指導をおこなっていく。	整容指導については生徒の意見も取り入れることで、生徒に自覚を促す。	自分たちでルールを改定したという自覚を持ち、身だしなみ等を整えることができる生徒が増えたか。	生徒会を中心に生徒の意見を反映させたルール作りをしたが、定着には至っていない状況である。	B	整容指導については、新たな取り組みもおこない、昨年度と比較すると成果はあった。一方で教員間の温度差があり、その是正が必要である。	地域でアンケートをとってみたいかどうか。そうすることで見えない部分が見える化する。地元と一体化した活動もあるとよい。
		SNSの使用について、今後とも継続的に指導していく必要がある。	スマホ・ケータイ安全教室を実施し、安易なSNSへの書き込みがどのような事態を招くか理解させる。	SNSの使用マナーを向上させられたか。またトラブルに対し、迅速に対応できたか。	表立ったトラブルはなかったが、今後も注視していく必要がある。	A	SNSのメリット・デメリットを引き続き指導していく。また家庭とも連携を図る。	スカート丈等、服装面で気になる生徒がいるので、指導をお願いしたい。ただし、表面だけの指導に注力するだけでなく、生徒の行動面も変わるように指導してもらえるとありがたい。
		本校の取り組みや生徒の様子を外部に発信することで、本校の生徒であるという自覚を促し、愛校心を涵養する。	ホームページ（HP）の更新を積極的におこない、リアルタイムで学校の様子を保護者は勿論、卒業生や地域の方々にも発信していく。	HPの更新を日々おこない、生徒が活躍の様子やイベント等の情報を発信できたか。また生徒や保護者が話題とするような画面作りができたか。	情報推進部を中心に積極的にHPを更新し、リアルタイムで情報発信することができた。	A	小中学生や保護者の情報収集の仕方など、その動向を踏まえつつ、入試情報や生徒の活躍の様子を広く発信していく。	体育祭などを見て我が子をこの学校に入れてよかったと改めて思った。文化祭にもぜひ足を運んでほしいと、私たちもPRしていくので頑張ってもらいたい。